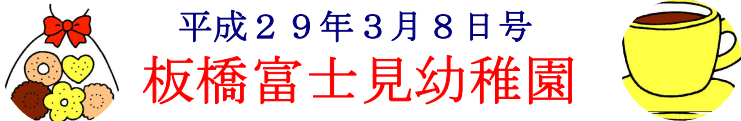


らじみサラダボール子育て情報

「言葉の源泉のイメージ」
平成29年3月8日号
板橋富士見幼稚園



絵を描く機会を大切に

2歳を過ぎた頃から、子どもは、体験をてがかりに自分の頭の中で色々な思いを描くようになってきます。その思いは現実であったり、虚構であったりします。思いが浮かぶたびに、壁につい絵を描き出したりして、叱ってしまったりします。生後1歳を過ぎたころから「なぐりがき」といって、描くことのおもしろさに目覚めます。大人から見たら、クレヨンやクレパスを紙に押しつけて引けば線が描けることは、理屈として理解できます。しかし、子供は、クレヨンやクレパスを押しつけて引くと、その先から、同じ色の線が出でくることの不思議さに好奇心が沸き立つのです。

そして、1歳半を過ぎると、「あれを描きたい」といった、描こうとするものがはっきりとイメージされてきます。



子どもが頭の中で想像し、描こうとしている「物」があるということは、「物」を認知（花・犬・自動車など）する力が育って来ていると判断できます。

自分の周囲の物に名前があり、その物に強い印象を抱き、心が動かされることは、外の世界に向かって、自分を広げようとしている証拠です。

単にお絵かきと言っても、幼児期に絵を描くことには深い意味があるのです。幼児期にたくさん絵を描かせることは、その子の想像性【イメージ】を豊かなものにすると共に、言葉【心の中の言葉】

を獲得する大切な営みです。

テレビやゲーム機器の遊びも、時代の流れとして取り入れていくことは大切ですが、クレヨンやクレパスを使って、自分のイメージした世界を描き出すことで、描くものと語り合いながら、楽しさや色の重なりを発見し、自分のイメージの世界を広げながら、言葉を育んでいきます。

想像力は、物を見立てていく知的な行為であり、思考や直感力や発想力に転換していきます。また、物と物を繋げ想像する力は、頭の中で文を構成する力となり、やがて作文が上手に書ける子となって育つと言われます。

少し難しくなりましたが、要するにイメージが豊かで、そのイメージを画用紙にクレヨンやクレパスで大きく描く経験は、知的な能力を育てていることになります。今日から、たくさんお絵かきを楽しませて下さい。

はじめは落がきばかりしていますが、次第に形になっていきます。形が描けるようになったら、いろいろ語り合ってみて下さい。

2歳からの思い出として、大切にとっておいてあげるといいですね。お母さん。